



# かわしま



10月号

令和4年 9月30日(金)

横浜市立川島小学校

きずな

## 絆って何ですか？



校長 石塚 直実

萩の花が風に揺れています。黄色く色づき始めた柿の実も秋の風情をかき立てます。

先日、全校集会がありました。なかよし班の子どもたちが異学年交流でペアになり、校庭での活動。新聞紙の上にボールを乗せて、両端をそれぞれペアで持って運ぶというゲームです。このコロナ禍の中、「なかよし委員会」の委員長と副委員長が校長室を訪れ「全校が参加できる集会を！」と訴え、実現した集会です。その時の真剣なまなざし。心が揺れました。

私が5年生の担任の時のことです。「学級活動」の授業をしました。活動名は「自分たちの力でクラスのきずなを深めよう」。議題名は「きずなアップ集会のプログラムとやり方を決めよう」というものです。新しいクラスがスタートして2ヵ月。学級目標が「きずな」に決まりました。さらに良いクラスにするために『きずなアップ集会』でクラスみんなの気持ちを一つにしよう！』という願いをもちました。そして、『きずなアップ集会』のプログラムを決めよう』という話合いがなされました。話合いの柱は2本。1本目は、集会の内容を「歌合戦」にするか「一芸大会」にするかというものでした。

2本目は、参加方法です。全員参加が前提で、「今の班」ごとか「くじ引き」でグループを決めるかというものでした。話合いが進む中でくじ引き賛成派が多数を占め、「くじ引きで決まりかな？」と私は思いました。私はその状況を見て「本当にくじ引きでいいのですか？」と投げかけました。しばらくの沈黙の後、一人の女の子が言いました。「私は以前、くじ引きでグループを決めた時がありました。」「私が引いたくじを見た瞬間、友達が嫌な顔をしました。」「だから、くじ引きは嫌です。」と勇気を振り絞って言いました。ざわめく子どもたち。「そんな人はこのクラスにいないよ」等と口々に発言しました。そんな中、一人の女の子が立ち上がりました。「そんなことをしたら、学級目標は達成できません。」「何のための学級目標なのですか？」

これまでの自己の体験を勇気を振り絞って語る子。それを自分事として受け止める子どもたち。そして、自分たちが目指す未来の自分たちを信じ、過去を乗り越えようとする姿。現在の自分と、かけがえのない他者である仲間をもう一度信じようとする姿がありました。私の胸に熱いものがこみ上げてきました。これが「絆」なのだと思います。絆とは、「自己とかけがえのない他者が『信頼という糸』で織りなすもの」だと思いました。

過日、5年生の女の子が家庭科の学びを生かして『フェルトの笑顔の立体作品』と『日本一の学校を目指せ！愛川楽しみにしています！と書かれたお手紙』をくれました。この学校だよりがお手元に届くころは、その4・5年生の愛川宿泊体験学習で子どもたちの心のページが笑顔いっぱい縁取られていることでしょうか。どんな絆が織られたのでしょうか？

仲間との絆を信じ、未来を創る川島小学校の子どもたち。

この出会いに感謝し、川島小のすべての子どもたちを全力で支えたいと心から思います!!